

動物看護専門職短期大学生への動物看護職に対する イメージと職業への意識調査

—1年次から2年次の変化を中心として—

A Survey for College Students Specializing in Veterinary Nursing on Their Image of the Veterinary Nursing Profession and Their Attitudes Toward the Profession

山川 伊津子¹⁾・大橋 由紀子²⁾

YAMAKAWA Itsuko

OHASHI Yukiko

要 約

2021年度に入学したヤマザキ動物看護専門職短期大学2年次生へ、昨年からの継続研究として、動物看護職に対するイメージと職業への意識、希望職種、現時点での不安や疑問について調査した。アンケート結果より、将来動物看護職就業を希望するか否かの2つのグループに分け、イメージと職務内容について1年次と2年次の比較をした。分析の結果、イメージについては希望するグループでは2年次で飼い主対応についての記述が増加していた。職務内容については、2つのグループでは大きな差は認められなかった。さらに、動物看護職を希望しないグループが増えていたこと、また、4割以上の学生が何らかの不安や疑問を抱えていることが分かった。学生が抱える不安や疑問の受け皿として、相談体制の充実が愛玩動物看護師のキャリアコミットメント継続につながるのではないかと考えられた。

キーワード：動物看護師、希望職種、職業イメージ、キャリアコミットメント

I. 序章

2023年2月に第1回目の愛玩動物看護師国家試験が実施され、いよいよ初めての国家資格保持者としての動物看護師が誕生する。犬と猫の飼育頭数が15歳未満の子どもの数を上回る現代社会において^{1), 2)}、愛玩動物に対する動物医療の普及・向上と適正飼養を目的に作られた愛玩動物看護師は、飼い主と愛玩動物を支える専門職として社会に求められるものである³⁾。

2019年に開学したヤマザキ動物看護専門職短期大

学は、動物看護の教育を中心とする動物トータルケア学科を有する単科短期大学である。専門職大学(短大)とは、「特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な知識・理論、そして実践的なスキルの両方を身に付けることができる大学で、大学制度の中に、実践的な職業教育に重点を置いた仕組みとして制度化するものであり、産業界との密接な連携により、専門職業人材の養成強化を図る」とある⁴⁾。本短期大学は、ペット産業界に貢献すべく愛玩動物看護師を中心とする動物看護の専門職を養成することを目的としている。

本学へは、大半の学生が動物看護師になりたいという明確な職業意識を持って入学してくるが、専門職

1) ヤマザキ動物看護専門職短期大学 動物トータルケア学科

2) ヤマザキ動物看護大学 動物看護学部

短期大学としてキャリアコミットメントをどの様に維持または向上させていくかは一つの課題である。キャリアコミットメントとは、「特定の職業に就きたいという決意を育み、困難があっても学業を続けていこうとする姿勢」⁵⁾を指す。室津らは、(人医療の)看護学生での調査において、職業への愛着や同一化を示す情緒的要素が学年進行に伴って低下し、それは看護師イメージと同様に、学修を進める中で、看護の奥深さや現実の厳しさを自覚する課程による変化と述べている。そして、看護に興味・関心が持て、魅力的な職業として学ぶことが継続できるような関りとともに、学生の背景の違いなどによる学年の特徴を踏まえた支援方法の工夫が必要としている⁶⁾。また、小林は、(人医療の)看護教育課程の中で、職業的アイデンティティをどの様に確立し成長していくのか、その社会化過程を探るために一つの視点としての看護婦イメージが重要であると述べている⁷⁾。本学においても、学業半ばで当初の目的であった動物看護師になることを諦め進路変更を選択する学生も毎年複数存在する。動物看護師以外でやりたいことが見つかるという積極的な進路変更ではなく、何らかの要因により諦めるという学生に対してキャリアコミットメントを向上させるための動物看護教育は明らかになっていない。

筆者らは2021年度本学入学生を対象として動物看護師に対するイメージと動物看護という職業への意識を調査し、1年次においては動物看護師を希望するかどうかに関わらず、イメージ、職務内容共に大きな差がないことが理解できた⁸⁾。本研究では、昨年度の調査の継続研究として、現2年次生を対象として動物看護師に対するイメージと職業意識を調査した。1年次から2年次における経時的変化を中心として述べるとともに、その変化に対して動物看護教育においてキャリアコミットメントの視点も含め何が必要とされるかを検討した。

II. 方法

調査方法は以下となる。

時期：2022年4月

対象：2021年度に入学した現2年次生99名

方法：必修科目終了後に質問紙配布、回収(回収率100%)。

内容：質問紙の項目は以下の通りで、記名式とした。

1. 現在の希望職種(動物看護師、グルーマー、その他の3択)
2. 昨年度から希望職種が変わった場合はその理由(自由記述)
3. 動物看護師に対するイメージ(自由記述)
4. 動物看護職に関する職務内容(自由記述)
5. 現時点で動物看護師になりたいか(なりたくないか、なりたくないかの2択と自由記述による理由)
6. 質問5で昨年度から意見が変わった場合の理由(自由記述)
7. 動物看護職についての質問や意見等(自由記述)

分析：質問3と4については、自由記述内容を書き起こした後、テキストマイニングフリーソフトKH Coderを使用して品詞、使用語彙に対する関連語を頻度順に調査した。KH Coderは、書き起こされたテキストデータを基盤とし、計量テキスト分析が可能となるフリーソフトウェアである⁹⁾。看護職を希望する学生と希望しない学生のグループに分け、各グループで記述された回答をもとに、動物看護職に対するイメージと仕事内容に関する意見の相違を比較した。

倫理的配慮：本研究はヤマザキ動物看護専門職短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施された。また、実施前に対象学生に、研究の主旨と回答は任意であることを説明した。

III. 結果

回答のあった99名のうち男女比は女子88名、男子11名で、各項目に対する回答結果は以下の通りである。

質問1. 希望職種

希望職種は動物看護師69名、グルーマー7名、その他が23名となった。

その他としては、動物関連企業(ショップ)、トレーナーなどと共に未定も含まれる。また、グルーマーやその他と回答した者の中には動物看護師の資格は取りたいという者も複数いた。

質問2. 昨年から希望職種が変わった場合とその理由

昨年(2021年度)の1回目の調査から希望職種を変更した学生は11名で、その内訳は表1の通りである。また、ここに

表1 職種変更と人数・理由

職種変更		人数 (人)	理由
2021	2022		
動物看護師	グルーマー	1	カットが楽しい
動物看護師	その他	7	TVで警察犬訓練士を知り興味、動物看護師の勉強が難しい 関連企業に興味、動物看護師の処遇が悪い等
グルーマー	動物看護師	2	動物看護の勉強をして興味等
グルーマー	その他	1	行動学の授業を受けてトレーナーに興味

は含まれないが、昨年未定だったがトレーナーになりたい、昨年はトレーナーになりたかったが企業に興味を持ったという学生もそれぞれ1名ずつ存在した。

質問3. 動物看護師についてのイメージ

「動物看護職を希望する」グループを1、「動物看護師を希望しない(グルーマー、その他を希望する)」グループを2として分類し、各グループでの学年間での自由記述内容を比較した。グループの分類には、質問5の結果(表6)を使用した。

グループ1(動物看護職を希望)に関して、1年次に動物看護職を希望した学生の回答と、2年次で動物看護職を希望した学生の回答に分け、KH Coderにて動物看護師のイメージに関して記述された語彙を比較した。表2は各学年で見られた特徴的な語彙を抽出したものと、Jaccardの類似性測度を示す。図1はグループ1(動物看護職を希望)の学年間で多く見られる傾向にある語彙の対応分析表である。□で囲んだ1年次の近くに表示される語が1年次で多くみられた語彙となり、□で囲んだ2年次の近くに表示される語が、2年次で多くみられた傾向にある語彙を意味する。表2で見られた語彙は、図2で分類された語彙から抽出されたものになるが、表2で示された語彙は各学年から最も多くみられる傾向にあった特徴語となる。

Jaccardの類似性測度は、集合の類似度を測定する指標であり、0から1までの値で示される。各学年で見られた動物看護師に対するイメージと関連が強いほど1に近づく¹⁰⁾。Jaccardの類似性測度と付してリストアップされる語は、データ全体に比してそれぞれの学年において高い確率で出現している語と考えられる。

1年次で見られた主な特徴語(表2)は「大変」「給料(が安い)」「優しい」「楽しい」等である。それに対して2年次は給料の指摘は少なくなり、「飼い主」「人」「寄り添う」等飼い主との関りに関する記述が多くみ

表2 動物看護職を希望する学生に多くみられたイメージの特徴語

1年次		2年次	
大変	.326	飼い主	.156
動物	.265	多い	.140
優しい	.242	仕事	.137
給料	.081	忙しい	.135
知識	.063	人	.088
必要	.062	寄り添う	.078
低い	.055	イメージ	.066
楽しい	.055	良い	.058
コミュニケーション	.046	難しい	.057
体力	.046	常に	.056

られる。

図1においてこの飼い主との関りに関連ある語として「関係」をKH Coderのコンコーダンサーで確認すると、「人間関係・信頼関係・飼い主との関係」などが含まれた。コンコーダンサーとは、テキストから単語を抜き出し、関連語を表示するツールである。また2年次で見られた傾向の「休み」という語彙をクリックしたところ、「休みが少ない」「休みがとりにくい」などの文言がみられた。表の中心部にプロットされた語彙は1年次2年次ともに見られる傾向にある。両学年とも、「サポート」「忙しい」「動物(が好き)」というイメージを持っていることが示される。また、「対応」では「臨機応変な対応が必要」「柔軟な対応が必要」という意見が見られた。「働く」では「長時間働く」「動物のために働く」との記述があり、「仕事」に関しては「やりがいのある仕事、大変な仕事、仕事が多い」など否定的な意見も肯定的な意見も見られた。

次に、グループ2(動物看護職を希望しない)に関して、1年次に動物看護職を希望しなかった学生の回答と、2年次で動物看護職を希望しなかった学生の回

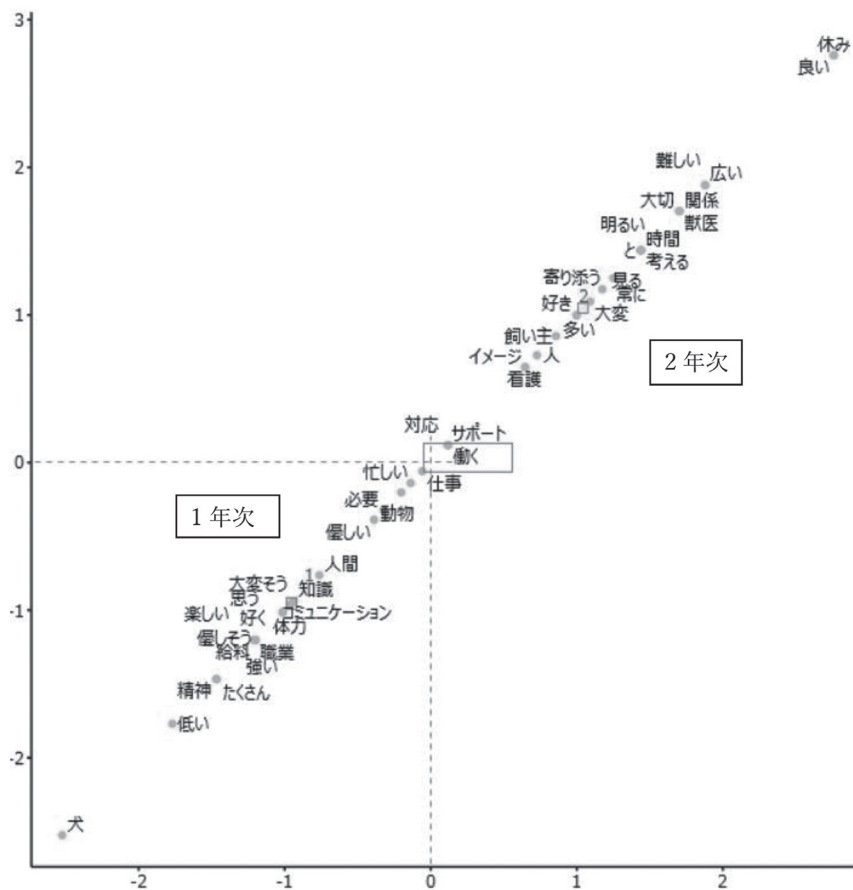


図1 動物看護師を希望する1年次と2年次でみられた動物看護師のイメージ語彙の対応分析

答に分け、KH Coderにて記述された語彙を比較した。表3は各学年で見られた特徴的な語彙を抽出したものと、Jaccardの類似性測度を示す。図2はグループ2(動物看護職を希望しない)の学年間で見られた語彙の対応分析表である。

表3からは、動物看護職を希望しない学生では、1年次では「優しい」「愛」「テキパキ」等肯定的な言葉が多かったのに対して、2年次において「仕事」が「大変」、「知識」が「必要」「難しい(仕事)」などの否定的なイメージを持つ傾向にあることが示される。

図2を見ると、1年次2年次共通に見られた語彙として「大変そうな仕事、責任が重い仕事」が示されている。2年次には「死に向き合う、直面する」ということばが複数出てくることがわかる。1年次で多くプロットされている「看護」ということばをコンコーダンスで確認したところ、「人の看護」ということばが見られ、「人の看護と変わらない」「人の看護と同じ」という意見がみられたが、2年次では「人の看護と変わらない」というイメージは見られていない。

表3 動物看護職を希望しない学生に多くみられたイメージの特徴語

1年次		2年次	
優しい	.333	大変	.559
動物	.214	仕事	.182
忙しい	.182	知識	.156
コミュニケーション	.143	多い	.152
愛	.143	給料	.125
溢れる	.143	必要	.125
様	.143	獣医師	.094
テキパキ	.125	重要	.094
一番	.125	職業	.094
看護	.125	難しい	.094

質問4. 動物看護職に関する職務内容

質問事項3と同様、「動物看護職を希望する」グループを1、「動物看護師を希望しない(グルーマー、その他を希望する)」グループを2として分類し、各グループでの学年間での自由記述内容を比較した。

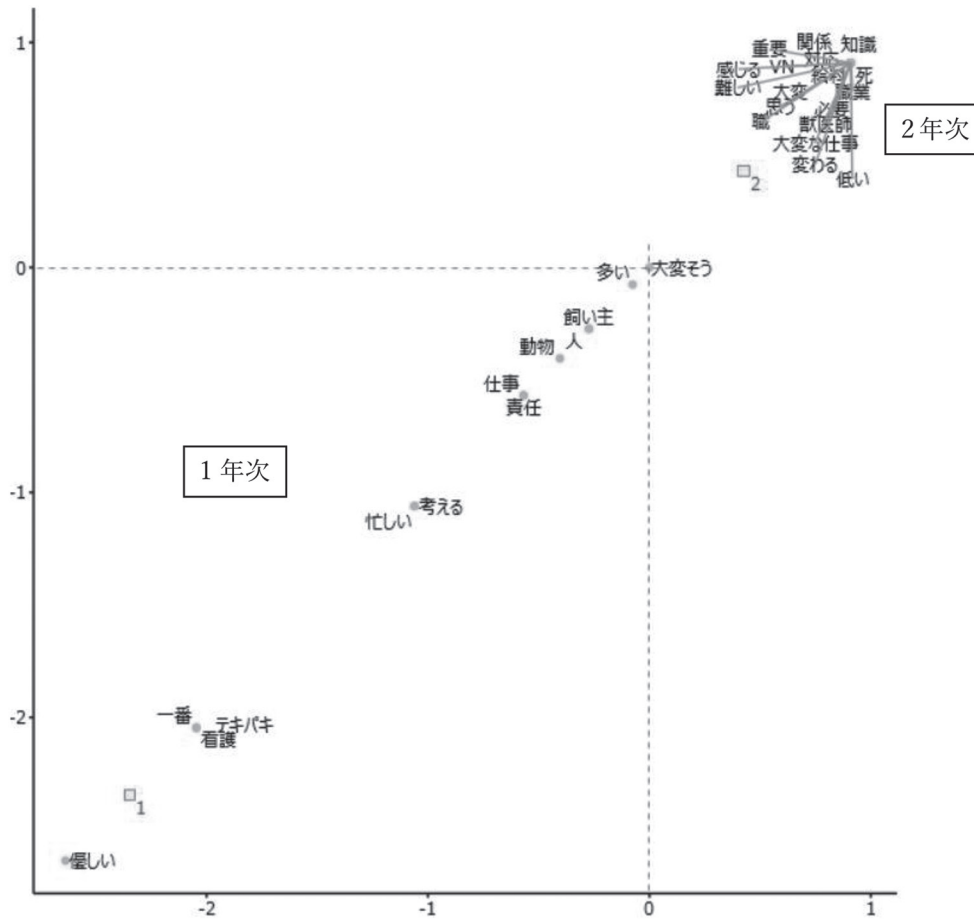


図2 動物看護師を希望しない1年次と2年次でみられた動物看護職のイメージ語彙の対応分析

グループ1（動物看護職を希望）に関して、1年次に動物看護職を希望した学生の回答と、2年次に動物看護職を希望した学生の回答に分け、KH Coderにて、動物看護職の仕事内容に関して記述された語彙を比較した。表4は各学年で見られた特徴的な語彙を抽出したものと、Jaccardの類似性測度を示す。図3はグループ1（動物看護職を希望）の学年間で見られた語彙の対応分析表である。

表4に示されるように、1年次は「獣医師」「獣医」「サポート」という言葉から分かるように、獣医師の補佐的な役割が職務内容だと捉えていたことが伺える。それに対して2年次になると「受付」「検査」「電話対応」など具体的な仕事内容が記述されている傾向が見られる。

また、図3からはどちらの学年においても、「保定」「掃除」「世話」「看護」などが共通して見られる。

次に、グループ2（動物看護職を希望しない）に関して、同様の分析を実施した。表5、図4から見られた語彙からは、動物看護職を希望するグループ1と同

表4 動物看護職を希望する学生に多くみられた職業内容の特徴語

1年次		2年次	
動物	.306	保定	.430
カルテ	.275	準備	.378
調剤	.264	掃除	.303
薬	.180	受付	.290
獣医師	.165	飼い主	.284
獣医	.151	検査	.282
サポート	.135	入院	.264
記入	.094	電話対応	.259
作成	.092	補助	.202
対応	.092	管理	.172

様、1年次では「獣医師」「手伝う」など補佐的な言葉が多くみられるのに対して、2年次においては「調剤」「検査」「電話対応」など仕事内容が具体的に記述されている傾向がみられる。

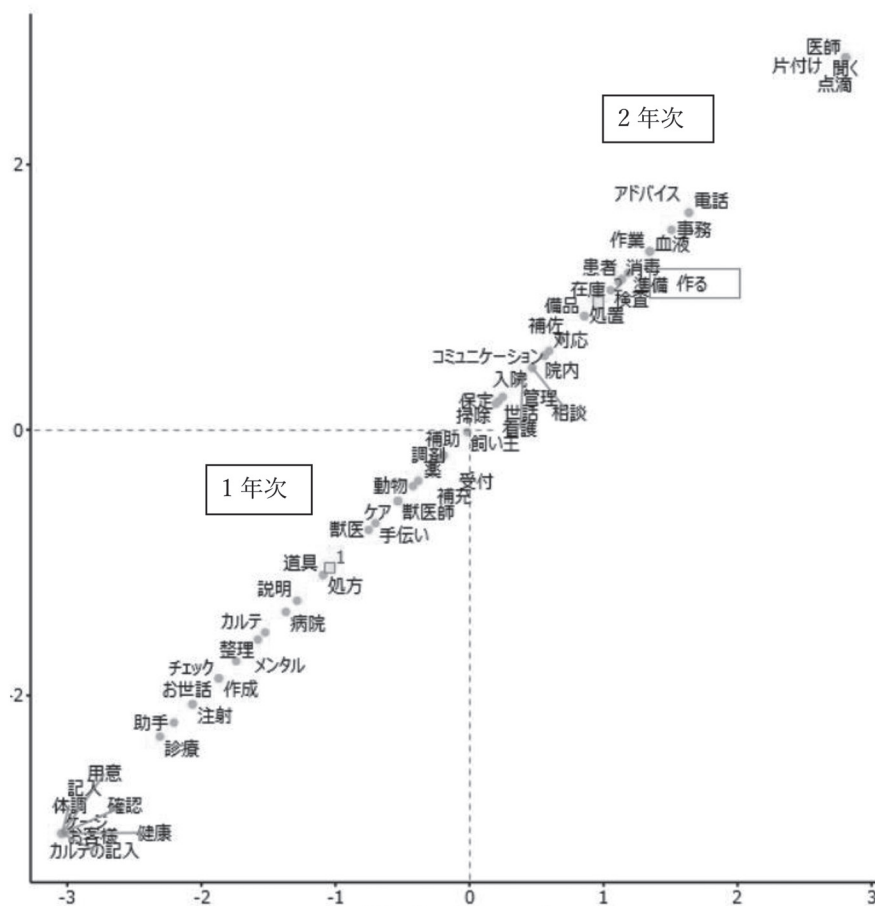


図3 動物看護師を希望する1年次と2年次でみられた動物看護職の職務内容語彙の対応分析

表5 動物看護職を希望しない学生に多くみられた職業内容の特徴語

	1年次	2年次		2年次
獣医	.240	保定	.430	
管理	.227	準備	.378	
手術	.222	掃除	.303	
手伝い	.222	受付	.290	
事務	.200	飼い主	.284	
入院	.182	検査	.282	
薬	.174	入院	.264	
カルテ	.143	電話対応	.259	
在庫	.105	補助	.202	
作業	.105	管理	.172	

質問5. 現時点での動物看護師希望の有無

現時点で動物看護師になりたいかどうかの質問に対しては78名が希望あり、17名が希望なし、4名が空欄またはなりたい気持ちとなりたくない気持ちの両方を持っているという結果であった(表7)。

「なりたくない」理由としては、他にもっとなりたい職業がある、苦しそうな動物を見るのがつらい、命を扱う現場が怖い、動物看護師の処遇(賃金)が悪い、動物看護師になれる自信がないなどがあつた。また、「なりたい」と「なりたくない」の両方の気持ちを持つ理由としては、動物看護師の仕事に対する自信がない、資格は取りたいが別の仕事を希望などがあつた。

質問6. 質問5に対して昨年から意見が変わった場合、その内容と理由

昨年は動物看護師を希望していたが、今年は希望しないと回答したのは5名であつた。その理由は、グルーマーや関連企業に関心を持った、動物看護の勉強をして難しさを感じた等であつた。ただ、5名のうち2名は、動物看護師の資格は取りたいと考えていた。

質問7. 動物看護師についての質問や意見等

この質問に対しては、43名からの回答があつた。回答内容は大きく5つに分類できた(表7)。1の「動物

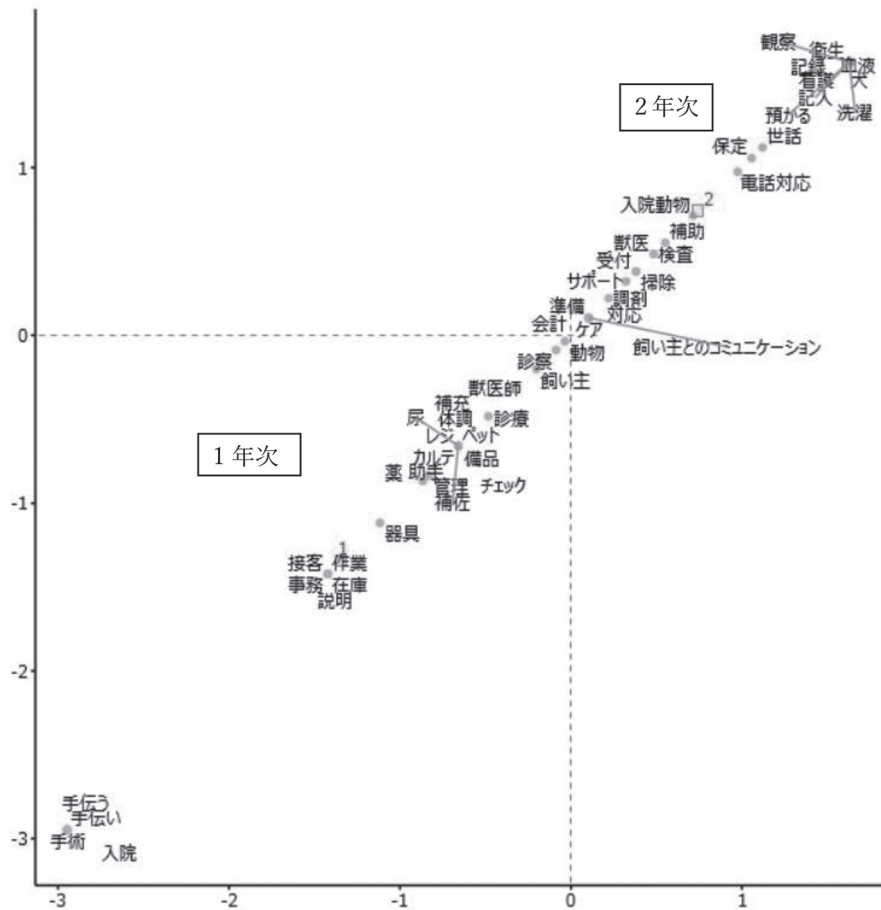


図4 動物看護師を希望しない1年次と2年次でみられた動物看護職の職務内容語彙の対応分析

表6 現在の動物看護師希望の有無

希望の有無	人数 (人)	%
なりたい	78	79
なりたくない	17	17
空欄 (なりたい&なりたくない)	4	4

表7 動物看護師についての質問・意見・不安等

内容	人数 (人)
1 動物看護師になれるか/動物看護師としてやっていけるか	14
2 国家試験について	10
3 動物看護師の処遇と職場環境	10
4 自身の体力やアレルギー等	6
5 その他	3

看護師になれるか/動物看護師としてやっていけるか」は、勉強への不安と動物看護師になってからも職場でやっていけるかの両方に対する不安や意見があった。2の「国家試験について」は、合格できるかどうかの不安が大半であった。3の「動物看護師の処遇について」は賃金が安い、労働時間が長い等処遇に対する不満や意見であった。

4の「体力やアレルギー等について」は自分のアレルギー体質や体力等について、動物看護師としてやっていけるかという不安であった。5の「その他」としては、接客のアルバイトをしておいた方がいいか、動物看護師の離職後に何をしているのかという質問であった。

Ⅳ. 考察

各質問項目の結果に対して、以下のような考察を行った。

質問1. 希望職種 及び 質問2. 昨年から希望職種が変わった場合とその理由

希望職種については、昨年から今年の変化として動物看護師、グルーマー共に希望人数が減少し、その他を希望する学生が増えていた(表8)。1年間の学びの中で他の職業についての知識が増え、希望が変更したのではないかと考えられる。しかし、今後さらに学修を継続し、また臨地実習(動物病院、動物関連企業・施設等)^{注1}での学外の体験をした後に何らかの変更が生じることは十分に予測できる。

質問3. 動物看護師についてのイメージ

グループ1(動物看護職を希望)の結果からは、1年次では「大変そう」「動物」「優しい」という言葉が表すように、動物看護師は動物が好きで優しいが仕事は大変そうという漠然としたイメージを持っていたと考えられる。これに対して2年次は、「仕事」「多い」「忙しい」という言葉とともに「飼い主」「人」「寄り添う」など動物だけでなく人を対象とする仕事であるというイメージを持つようになっていくことが理解できる。

グループ2(動物看護職を希望しない)では、1年次では「優しい」「愛」「テキパキ」など肯定的な言葉が目立つ。動物看護職は希望しないものの、ポジティブなイメージを持っていたのではないかと考えられる。

表8 希望職種

希望職種	2021年	2022年
	人数	人数
動物看護師	76	69
グルーマー	10	7
その他	13	23

2年次になると「大変」「(仕事が)多い」「難しい」など否定的な言葉が多くみられる。1年間の学修のなかで動物看護職に対する具体的な難しさを理解してきたのではないかと推測できる。これは、質問6の昨年からの比較において動物看護師になりたいという学生の減少(90→78)、なりたくないという学生の増加(8→17)につながる可能性が考えられる。その理由が消極的なものであれば(学業が難しい、職業的魅力がない)どのようにそれを改善できるかの検討も必要である。

質問4 動物看護職に関する職務内容

図3、図4より、動物看護師を希望するグループ1でも希望しないグループ2でも、1年次では一般的な「補佐的業務」が多く挙げられていたのに対し(例:カルテ、助手、用意)、2年次では職務内容に関する描写が具体的になっている様子がみられる。例えば「薬、消毒液を作る」等、実際の仕事内容が具体的に記載される傾向が見られた。更に、2年次では「飼い主(とのコミュニケーション)」という記載が多くみられ、1年次で多い傾向にあった「手伝い・補助」という印象から、飼い主との対話、電話応答等、コミュニケーション能力を要する業務だということを理解し始めた時期であると示唆される。現調査では、動物看護師を希望するグループと希望しないグループ間での記載に目立った差異は見られないものの、2年次では飼い主との人間関係構築を意識している時期であり、授業でもその対応法等を指導することでやりがいに繋げられる可能性があることが提案できる。

質問5 現時点での動物看護師希望の有無 及び

質問6 質問5に対して昨年から意見が変わった場合、その内容と理由

現時点での動物看護職希望の有無について、昨年度と比較したものが表9となる。「なりたい」が減少し、

表9 現在の動物看護師希望の有無

希望の有無	人数	
	2021	2022
なりたい	90	78
なりたくない	8	17
空欄 (なりたい&なりたくない)	1	4

「なりたくない」が増加しているのが分かる。「なりたくない」の中には、迷っているという者も含まれる。1年間のうちに動物関連の別の職種を知り、新たな目標を持つようになったことがうかがえる。ただ、動物看護職にならなくても愛玩動物看護師の国家資格や他の資格は取りたいという意見も見られた。動物看護師の資格を持ってトレーナーやグルーマーなど動物関連の仕事に就きたいという希望は、今まで動物看護の資格イコール動物看護師という考え方しか持たなかった中で、新たな動物関連職の情報を得て選択肢を広げていったのではないかと推測できる。

ただ、結果の箇所でも述べたように、「動物看護師になれる自信がない」や「動物看護職の処遇(賃金)が悪い」など否定的な理由により希望が変更した学生に対しては、なぜ自信を喪失したのかという個別の対応や企業病院が増える中動物看護職の処遇も改善されつつあるなどの正しい情報の提供が必要と思われる。

質問7. 動物看護職についての質問や意見等

入学して1年後に学生が抱えている質問や不安については、様々のものがあることが理解できた。まず、動物看護職に対する自分自身の適正については、学修を進めていく中で多くの知識や技術を身に付けなければならないこと、あるいは命を扱う現場でそれに耐えられるかなどの不安がみられた。動物が好きであるという事実だけでは動物看護師になることは難しいかもしれないという思いを相談し、話し合える場が必要と思われる。本学ではクラスアドバイザーやカウンセラーによる相談室の制度を設けているが、学生がさらに相談しやすい体制作りが求められる。

国家試験については、第1回目が終了した段階である程度の傾向が見られるとは思われるが、合格に向けて在学期間中のどの段階でどのような対策が必要であるかを具体的に提示できれば、受験に向けての指針になるかもしれない。短大や大学等、学生が所属する機

関としての国家試験に対する丁寧な学生指導が必要と思われる。

動物看護職の処遇や職場環境については、最新の情報を手渡すことにより、学生の疑問や不安はある程度解消できるのではないかと推測できる。早い時点からの動物看護職を含めたキャリア教育が大切であるといえる。

一人一人の学生は動物看護を学ぶ中で様々な問題、課題、不安を抱えていることが示唆されたが、それらを早期に相談できる体制作りをすることでキャリアコミットメントの低下を防ぐことも可能ではないかと考えられる。学生が孤立して問題を抱え込まず、何らかの気づきや指導が受けられる環境が望ましい。

V. 結論

今回の調査は、昨年からの継続研究として1年間の変化を中心に検討した。動物看護師になりたいという学生は減少し、なりたくない、あるいはその他(動物看護師、グルーマー以外の職種、または未定)が増加していた。また、動物看護師に対するイメージにおいては、動物看護師になりたくないという学生については、否定的なイメージが増加していた傾向が見られたが、これが動物看護師を希望しないという結果と結びつく可能性も考えられ、1年間のうち何が理由でイメージが変わり、希望しなくなったかを個別に確認していく作業も必要ではないかと考えられる。職業内容については、1年間の学修の成果として具体的な内容が増えていたが動物看護師になりたいか否かに関係なくその傾向が見られた。2年次夏季の動物病院での臨地実習を終了した段階で職務内容の捉え方にどのような変化が見られるかは、今後の調査の必要がある。

動物看護職(師)に対しては半数近くの学生が何らかの不安や疑問を持っており、それらの受け皿の必要性が示唆された。また、不安や疑問を明らかにして相談できる環境は、動物看護職に対するキャリアコミットメントの低下を防ぐことにもつながると考えられる。専門科目担当教員、クラス担任、就職支援やカウンセラーも含め、学生相談の体制を整え、情報を共有しながらの支援が必要であると思われる。

注

1. 専門職大学（短大）の特色として、学外での臨地実習がある。本学においては1～3年の各学年において、合計450時間の学外実習を課している（事前授業、事後授業を含む）。1年次では併設のアニマルメディカルセンターにおいて病院とサロン、2年次夏季動物病院、2年次春季動物関連施設（ペットショップ、トレーニング施設、ペット同伴ホテル、老犬施設、動物保護施設、補助犬育成団体等）、3年次夏季動物病院または動物関連施設となっている。

引用文献

- 1) 総務省統計局 我が国こどもの数
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi1281.html>
2022年11月1日閲覧
- 2) 一般社団法人日本ペットフード協会 2021年（令和3年）全国犬猫飼育実態調査結果
<https://petfood.or.jp/topics/img/211223.pdf> 2022年11月1日閲覧
- 3) 農林水産省 愛玩動物看護師法の概要
https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/doubutsu_kango/attach/pdf/index-8.pdf 2022年11月1日閲覧
- 4) 文科省 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senmon/index.htm 専門職大学・専門職短期大学
2022年9月11日閲覧
- 5) 吉澤裕子・山口さつき・山口直行 看護学生の学園別看護師イメージとキャリアコミットメントの比較
旭川大学保健福祉学部紀要 vol.13 2021 5-13
- 6) 室津史子・贄 育子・重本多津子・今村美幸・藤原理恵子 看護学生の看護師に対するイメージおよびキャリアコミットメント —学年による比較—
ヒューマンケア研究学会誌 第5巻2号 37-44 (2014)
- 7) 小林ミチ子 看護婦イメージに関する研究(2) —各年別による検討— 新潟県立看護短期大学紀要 5 (1999): 9-16
- 8) 山川伊津子・大橋由紀子 動物看護専門職短期大学生への動物看護に対するイメージと職業への意識調査
動物研究 33-44 (2022)
- 9) 樋口耕一 <https://kxcoder.net/> 2022年12月4日閲覧
- 10) 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版

A Survey for College Students Specializing in Veterinary Nursing on Their Image of the Veterinary Nursing Profession and Their Attitudes Toward the Profession

YAMAKAWA Itsuko¹⁾, OHASHI Yukiko²⁾

Abstract

This study surveyed the images and attitudes of second-year students at Yamazaki College of Veterinary Nursing who entered in 2021 toward the veterinary nursing profession. We also investigated their current concerns that might influence whether they hope to work in this occupation or not. The student subjects were divided into two groups: a) students hoping to work in this occupation and b) those with no intention of engaging in this industry. We compared the questionnaire results with those from our former study (conducted in 2021 and focusing on the 1st year students). The findings regarding the image of veterinary nurses confirmed differences between first-year and second-year students, showing more descriptions about owner handling among the second-year students. In contrast, there was no difference regarding their attitudes toward the profession of veterinary nursing. The results also revealed that more than 40 % of the subject students had concerns or doubts about pursuing careers as veterinary nurses, reflected by an increased number of students hoping not to become veterinary nurses. These results imply that the educational system should be improved to include career consultations that may lead to ongoing career commitment among veterinary nurses.

Key words: veterinary nurse, desired job type, job image, carrier commitment

¹⁾ Yamazaki Professional College of Animal Health Technology, Department of Animal Health Technology

²⁾ Yamazaki University of Animal Health Technology, Department of Animal Health Technology